

令和3（2021）年度事業報告書

1. 全体（法人運営）

当期6月は役員改選時期にあたり、理事6名のうち1名、監事2名のうち1名が退任となり、それぞれ1名の選任がなされました。そのほかの理事・監事は重任となりました。新任の理事には阿部健哉氏、監事には境弘行氏が選任されました。

評議員会、理事会を下表のとおり開催し運営にあたりました。

表一 評議員会・理事会開催の経過

会議名	開催年月日	主な審議・議決事項
決算理事会	令和3年6月5日	1. 令和2年度事業報告書及び決算書承認の件 2. 役員改選・選任候補者決定の件 3. 評議員選任・解任委員会委員選任の件
決算評議員会	令和3年6月19日	1. 令和2年度決算書類及び財産目録承認の件 2. 役員改選に伴う理事・監事選任の件
臨時理事会	令和3年6月19日	1. 新任期における理事長決定の件
予算理事会	令和4年3月12日	1. 令和4年度事業計画ならびに予算の件

当期は、期首より就労継続支援A型の報酬が改定されました。事前届け出のスコア計算により、多額の減収が想定されましたが、ここ数年つづく、就労支援事業の売り上げの伸びが続けば乗り切れると云う判断のもと、コロナ禍もあり、理事会の招集はひかえました。

なお、期を通じて3回の職務執行状況報告（7月29日付、11月15日付、1月28日付）を行いました。

※理事会・評議員会議事録は、本部にて、常時ご覧いただけます。

2. 福祉事業

前年度に引き続き、障害者就労継続支援A型事業を行いました。組織の改編、利用者定員の変更はありません。利用契約者は、期首24名、期末22名で、年度内に2名が退社しました。長期欠勤者2名は、通院加療を続けており、うち1名は来期からの職場復帰を希望、ほか1名は依然として復帰の予定がたちません。

- ① サービス提供日数は、各月とも〔月日数－8〕日を予定しました。2月に2名の職員のコロナ感染（両方とも家族全員が感染）があり、濃厚接触者の疑いから1日だけ臨時休業としました。幸いにも、利用者の感染はなく安堵しました。
- ② 障害者の受け入れ・個別支援計画の作成、利用者負担額等の請求・受領、介護給付費請求・受領及び利用者の相談・苦情処理等の必要な福祉関連業務を実施しました。
- ③ 職員・利用者相互間の融和を図るためのレクレーション行事は、コロナ禍の折から、屋外が主体となる「芋掘り会」のみ行いました。
- ④ コロナ禍で各種研修会はパソコンによるリモート開催となり積極的に出席させました。
 - 感染症予防研修（7/23・26・27・28・29） 職員全員
 - 虐待防止研修－管理者コース（12/14） 福田
 - 利用者家族とのコミュニケーション向上研修（1/21） 吉田

○事業所等支援員研修 (2/8・9・11) 吉田

○ 同 (2/18) 水海陽介 (2/25・26・28) 堀口

3. 就労支援事業

◎菌床生産

前期に続き、昆虫飼育関連の菌糸商品の動きが良く、受注が活発で積極的に仕込み、通期では203釜(203日)の仕込みとなりました。

表一工場仕込・培養袋数

月	仕込釜数	菌床生産			受託生産品		
		全体	キクラゲ	霊芝	全体	ブロック	培養産卵木
4	18	9,263	4,327	4,730	3,029	1,031	1,554
5	15	8,193	6,517	276	2,939	477	1,609
6	18	9,259	5,751	0	3,017	959	1,197
7	18	9,006	4,546	0	4,514	1,463	3,051
8	15	6,750	4,584	0	4,066	906	1,802
9	17	6,420	3,427	0	5,291	2,182	2,029
10	17	7,825	6,671	0	4,470	1,650	2,337
11	17	8,052	7,636	0	2,235	631	1,604
12	16	8,186	2,919	2,073	1,759	439	698
1	17	9,807	1,875	3,927	743	63	540
2	16	8,863	1,589	4,279	2,146	415	962
3	19	9,970	3,317	3,364	3,452	869	1916
当期	203	101,594	53,159	18,649	37,664	11,085	19,299
前期	205	99,926	46,865	21,305	40,363	16,423	16,863

※①仕込全体では前期と大差ありませんでした (205釜⇒203釜)。

※②受託生産品の「菌糸ブロック」はブナオガ粉の入手難から実質仕込み量は、前期比、3割強減少しました。売上を堅持できたのは、培養産卵木の原料手当て(仕入れ価格のアップおよび入手先の増)が功を奏しました。仕込数は前期比114%となった。

※③霊芝およびアラゲキクラゲは、仕込時期が重なるため冬場の調整が難しい。アラゲキクラゲおよび霊芝の仕込み数の差は、単に仕込み時期の調整によるものである。

ウッドショックと呼ばれる、世界的な建築材需要増の影響を受け、ブナ材の産地である北海道において材の切り出しが出来ず入手難となり、思わぬ余波を受けました。培養産卵木については、前期同様、材料難で、多量の受注残を抱えた状況で推移しています。菌床類仕込作業は、これまでと同様に、月～金曜態勢で行いました。

◎きのこ生産

自家栽培は、前期同様に採算ベースに乗りにくい種類は極力栽培数量を減らし、安定した売上が見込めるアラゲキクラゲ・シイタケ・霊芝に力を注いだ。

- 霊芝は、施設(ハウス)栽培への切り替えに伴う準備不足で、230 kg (前期比 77%) の収量に終わった。原因は成長途上の水管理である。水を補給しないと決して大きく成長しない。
- アラゲキクラゲは、生は極力、宗像(志水企画)送りで販売し、4～11月で 1,208 kg (前期は 760 kg) を出荷した。乾燥品の微創研出荷は、ホールで 158 kg、カット品で 186 kgであった。このほか、埼玉・吉田京商事や近隣産直市場へのお荷が相当数ある。
- シイタケは、良品が採れる「岬」からシフトを変え、「HB3」を増やし、売れ残る時期はカット加工した。相当量をスライスとして、順次販売する方針をとった。新たな品種として「HB5」の栽培を行ったが、収量・形状は申し分ないものの品持ちが悪く、栽培現場からの評価はよくなかった。長所はあるものの主軸とするには問題がある。「岬」は、温度・水分管理を徹底すれば品質・収量ともに良く冬を通して栽培が可能である。低温期は少し温度を上げ、加湿すればよく採れる。
- 通期のきのこ売上金額は 12,336 千円で、このうち(有)微創研への売上は 4,521 千円であった。差し引き 7,815 千円は近隣産直市場の売り上げである。

生鮮きのこの市況は、大手「ホクト」および「雪国まいたけ」の低価格販売の影響を受け低迷している。シイタケは、場所が限定されない菌床栽培品の競合が激しくなり、地方においても生産過剰の様相を呈してきた。

表-収穫したキノコの生重量

きのこ名	収穫量 (kg)	摘要
アラゲキクラゲ	1 0, 7 9 3	4/9 ~12/3、うち 2 トン程度は生出荷
シイタケ	4, 5 6 7	岬-2,513、HB3-1,576、HB5-425
ナメコ	9 5 3	11/9~
南ヒラタケ	8 4 6	~518、9/14~11/25
北ヒラタケ	1 5 5	11/22~2/7
タモギタケ	3 5	4/6~10/25
トキイロヒラタケ	2 3	4/9~
マイタケ	0	都合により仕込み無し
計	1 7, 3 7 2	

4. 収支

2021(令和3)年度「東上きのこ苑」事業収支は、ほぼ下表のとおりとなりました。

表-会計区分別収支表

区分	科目	当初予算額	決算額	摘要
福祉収入	自立支援給付金	35,000	27,946	-7,054 4月からの報酬改定で激減
	利用者負担金	1,000	893	利用者の減による送迎料減少
	補助金収入	1,500	1,740	微増
	福祉収入計	37,500	30,579	-6,921 全く困った数字となった
福祉支出	人件費	28,000	22,325	-5,675 職員の補充を中止した
	事業費	1,850	1,853	
	事務費	6,500	6,695	
	福祉支出計	36,350	30,873	-5,477 激減
福祉会計収支		1,150	-294	
就労収入	菌床売上	18,000	18,603	微増
	きのこ売上	14,200	12,336	13% 減
	受託製造売上	17,000	19,194	13% 増
	昆虫事業売上	3,000	2,312	
	就労収入計	52,200	52,445	ほぼ達成
就労支出	労務費	25,000	22,764	-2,236 利用者減およびコロナ禍
	材料費	14,000	15,561	+1,561 増
	外注加工費	750	343	
	製造経費	6,750	7,959	+1,259 増
	就労支出計	46,500	46,627	
就労会計収支		5,700	5,818	売上が増え、支出が微減
事業収支		6,850	5,524	ほぼ達成

※本表は、毎月の試算表の集計値で、詳細については決算書類を参照下さい。

福祉会計：今期からの報酬改定の影響で、甚大な収入減となった。職員の待遇改善は、国の施策である、職員処遇改善加算制度を利用し改善してきたものの、賞与までは、未だ手が届いていない。次期からは、定員20名以下のサービス費の支給（通期で3,600千円）が見込まれ、賞与手当等世間並みの待遇へ改善をすすめたい。

就労支援会計：前期に比し、売上は5.7%伸び、中でも受託生産品が前期比3,108千円の増となった。支出は、1,087千円の増となったが、その要因は原材料費の値上がりによるものである。来期はブナオガ粉の安定供給先を開拓し、なお一層の売り上げ増を目指したい。既に岐阜県の取引先を通じて飛騨地方のブナを雪解けとともに入手する運びとなっている。